未来世代礼拝　小学生 (高) 礼拝説教 11月②

復帰摂理④　モーセ路程　神の願いとモーセの歩み

今回は、モーセについてのお話です。

前回は、アブラハムのお話をしました。アブラハム・イサク・ヤコブの三代で頑張って、やっと、メシヤを迎えることができると思いました。

でも、２つ問題があり、神様はすぐにメシヤを送ることができませんでした。

１つめは、アブラハムが３種の供え物を成功することができなかったこと。もう一つは、サタン世界と対決するには、アブラハムの家庭ではあまりにも基盤が小さかったからです。

そこで、神様はメシヤを迎えるための民族を準備することにしました。それがモーセ路程の大きな目的です。

まず、メシヤに似た立場として、モーセを立てました。モーセの後にメシヤが来ても大丈夫なようにです。そして、多くの悪い神を信じるイスラエル民族を神様の願う民族となるようにして、メシヤを守る環境も神様は準備したかったのです。

そのために神様は摂理を３回行いました。摂理、わかりますか？ 摂理は神様の願いを実現するために行われたことです。その３回の摂理で神様が願われたことは、エジプトに奴隷としてとらえられているイスラエル民族を、アブラハムが神様から与えられると約束された、カナンの地に導くことです。

最初の摂理は、モーセがエジプトの王子として育てられていた時です。

あれ？ でも、おかしいことに気が付きませんか？ なぜエジプトにいるのか？ それから、モーセがエジプトの王子になっていることはどうしてか？ 気になりますね。

ただ、なぜエジプトにいるのかは別のお話になるので、お父さんやお母さんに聞いてみたり、聖書のお話を読んでみてもいいかもしれません。

つぎに、モーセがエジプトの王子になったのは、エジプトの王様パロ、エジプトの王様はパロ、みんなはファラオをきいたことがあるかな？ パロとファラオは同じなんだね。エジプトの王様のことをパロといいます。そのパロが、イスラエル民族が増えることを恐れて、これ以上増えないように男の子を全員殺してしまえ！と言ったから（とっても怖いですね。）、モーセのお母さんがナイル川にモーセを入れたかごを流したら、水浴びに来ていた王女に救われて、王子として育てられたからです。

そんなモーセは王子として育ちましたが、イスラエル民族としての誇りを強く持っていました。そうして成長すると、イスラエル人が殺されそうになっているところに出くわします。みんなならどうしますか？ モーセはそのイスラエル人を助けたのです。それは王子であるモーセが、エジプトで奴隷となっているイスラエル民族を救ってくれると信じてもらうことが神様の願いでした。しかし、イスラエル人はモーセに対して「あなたはわたしを殺そうと思うのですか」と文句をいい、パロにも殺されそうになったので、モーセはエジプトで生活することができなくなりました。そうして、最初の神様の摂理は失敗してしまったのです。

２番目の摂理は、三大奇跡と十災禍の時からです。モーセは羊飼いをしていたところ、神様に呼ばれました。モーセは、最初は、自分が殺されるかもしれないし、話すことも上手ではないので「難しい」と神様に伝えるのですが、神様がモーセに奇跡を与えたり、彼の兄と姉にも一緒に行ってもらうことになり、イスラエル民族を解放するために、エジプトに行きました。

奇跡もあり、イスラエル民族はエジプトを脱出し、モーセとともにカナンに向けて出発しました。しかしそこでも、パロはイスラエル民族を殺そうと軍隊を送ったり、途中で砂漠を通るので食べ物や飲み物に困ったりし、モーセはとても大変な立場でした。

心配した神様は、神様を礼拝することできるように幕屋というものをつくるように命令されます。それでもモーセは神様に礼拝しながら頑張るのですが、十戒の石板を割ってしまったり、神様から水を出すようにするために岩を打つ時に２度打ってしまったり、イスラエル民族に対して怒りの感情を抑えることができないことがありました。

そうして、２番目の摂理も失敗するようになってしまいました。

３番目の摂理は、幕屋の礼拝を続けていた、ヨシュアとカレブにモーセの役割が引き継がれました。そうして、ヨシュアとカレブがイスラエル民族を率いてカナンに入るときに多くの問題がありましたが、彼らは神様を信じて、問題を乗り越えて、さらに神様を信じることができるようになりました。そうすることで、イスラエル民族はカナンに入ることができ、３度目でやっと、神様の摂理を勝利することができました。

このように、神様の摂理は、大変なこともありますが、神様を信じて歩むことで乗り越えられるようになっています。みんなもみ言を読んだり、お祈りしながら頑張ることで、成長できるようになっていると思います。